

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090900178		
法人名	福岡地所シニアライフ株式会社		
事業所名	グループホーム ユトリア博多		
所在地	福岡市博多区博多駅南3丁目4-36		
自己評価作成日	平成27年11月 日	評価結果確定日	平成28年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL:092-589-5680 HP: http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	平成27年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

同じ建物の中に「小規模多機能居宅介護」「訪問介護」「サービス付き高齢者向け住宅」を併設しております。認知症が進んで在宅生活が難しくなった方でも、リロケーションダメージも少なく移行できるのでと思います。「一日一回はユニットの外に出よう!!」を合言葉に散歩や、ドライブは日常的に行っており、ご家族様と一緒に外泊支援も行えました。今出来る事を企画し、実行しております。「尊厳ある介護」「やさしい介護」「生活の質の向上」を基本に「自分らしくを支える真心の介護」を職員一同心がけております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ユトリア博多」は併設型のグループホームで、6F建ての3Fに左右対称の配置で2ユニットが運営されている。博多駅から徒歩10分、100円バスの圏内でアクセスのよい立地でありながらも、一本路地に入ることで閑静な環境でもある。公園や公民館、図書館なども近いことで、日常的に散歩に回れるコースも豊富で、地域の方との交流にもつながっている。地域交流室も開放して、毎週の「ユトリアカフェ」、介護予防体操なども開いており、地域に根差したサービスがなされる。1Fに鍼灸整骨院もあり、訪問マッサージなどが行われている。昨年から外出機会を大きく増やしており、日頃の散歩はもちろん、ドライブによる夜景見学やホテルバイキングなどバリエーションも持たせて、飽きのこないレクを提供している。今後も地域を支える福祉施設として益々の存在感の発揮が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設全体で共通の「ユトリア博多」の理念があり、毎日の申し送り・朝礼で唱和しています。各部署には年間計画もあり、達成に向けて日々努力しております。	開設時に法人で考えられた「ユトリア博多」の理念と、現場の職員が作った介護理念があり、全体とグループホーム単独で、それぞれを唱和・確認している。半期ごとに理念に基づいた事業目標を立てて、さらにそれを個人目標に落とし込んで実践に努めており、理念共有も進んできている。理念はパンフレットにも掲載されており、新人にも入職時オリエンテーションで伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に一度の地域運営推進会議は定期的に行い、毎週地域交流室を開放し、保健福祉センターと協力して地域サークルや連絡会にも利用してもらっています。地域主催行事も積極的に参加しております。また、散歩に出かけた際など、近所の方にあつた時は挨拶を行っております。	地元小学校の国際交流にボランティア協力し、管理者が受け入れの手伝いなども行っている。区や地域包括とも協力して、介護予防の体操、ケアマネ連絡会に会場提供もしている。町内会にも加入し、地域清掃など町内活動に入居者と一緒に参加することもある。地域交流室は開放して弁護士とのリスクマネジメント講習や、カフェ活動を行い、介護相談を受けることも増えてきた。	管理者は認知症キャラバンメイト講習も受講済みであり、今後は地域への認知症啓蒙活動などに、行政や地域とも連携して取り組まれていくことにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方も参加できるユトリアカフェを毎週金曜日に行っており「認知症と口腔ケア」「認知症と補聴器」など認知症に関するセミナーを行っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の一年間を、スライドショーで流してみたり、行事と同日開催にして日頃の様子を見て頂いたり、調理レクで作ったものを会議で提供したりと工夫し、活発な意見を頂けるようしています。	会議は併設小規模多機能と同日開催で自治会長、包括、市職員、民生委員、家族、入居者が参加し、老人会長や、併設整骨院長、提携歯科に参加いただくこともあった。リビングで開催し、入居者と作ったおやつを出したり、防災訓練と同日開催して様子を見てもらうこともある。意見や情報提供もよく出され、議事録は家族への郵送、市役所にもメールで報告もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から、現場で起きる疑問点等、細目に行政に連絡を取り、アドバイスを頂いている。運営推進会議への参加もして頂いてます。地域交流室の使用も開放しており、定期的な利用も増えてきております。	直近で市からの定期指導もあったが、まめに電話、相談していることもあり、問題なく評価もいただいた。博多区内のGHネットワークがあり、空室情報などを共有して区の担当にも報告し、2ヶ月ごとに発行する「ユトリア通信」も渡している。地域交流室の活用は行政とも協力しており、日頃担当者から気にかけてもらうこともあり、相談しやすい体制ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会で事例検討を行い、その結果を部署のミーティングで報告しています。内部・外部研修にも参加し、伝達研修も行っています。ユニット玄関の入り口は電子錠になっていますが、外出要望のある方には見守りや付き添いで対応しています。	施設全体で委員会を組織し、毎月事例検討を行って現在はセンサーマットの利用状況に関して協議している。拘束をしないよう、転落リスクのある方にも柵ではなく、マットで対応している。ユニットの入り口は暗証ロックされており、外出要望には見守り、付き添いで対応している。外部研修には年1回参加し、スピーチロックや言葉遣いなども含めて学習を進めている。	

H27自己・外部評価表（ユトリア博多）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は外部・内部研修を通して学ぶ機会を設けており、委員会も設けています。すべての職員が常に意識して、業務に取り組んでいます。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加した職員が、内部研修で伝達研修を行い、学ぶ機会を持っております。	今までに制度を活用した事例はないが、毎年権利擁護や虐待防止に関しての外部研修を受講して、内部では資料回覧と共に伝達講習を行っている。1Fの受付にパンフレットなども準備されており、法人内部にも弁護士などの相談部署がもたれている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の見学は常時受けており、契約時には口頭および紙面での十分な説明を行い、同意を得ています。契約後も必要に応じて相談援助を行っています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、居室担当から写真付のお便りをお送りしたり、ご家族様の面会時には居室担当やユニットリーダーが直接話を伺っております。	担当者から手紙と写真による報告を毎月しており、家族の面会も比較的多い。家族との電話内容もすべて記録して、進捗や情報共有を図っている。今年初めて全体でのアンケートを行い、現在集計を進めている。面会で意見を聞くことも多く、意見には随時職員で話し合い報告もしている。家族参加行事も企画し、こまめに声掛けも行っている。	家族会や、職員も含めた懇親会なども企画し、より一層関係を深めて、意見の引き出しや協力関係が強化されていくことにも期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、部署ミーティング、内部研修、施設全体の会議と同日に行い、情報共有を行っています。	毎月、グループホーム全体のミーティングがあり、パート含めて全員が参加している。研修も同日に行い、外部研修伝達もされている。各担当者からの提案や入居者情報共有もされており、備品の購入設置、レク企画などが提案、反映されている。半期ごとに管理者との面談もあり、日頃からも円滑にコミュニケーションがとられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを取り入れ、半期ごとの個人目標を立て、面談を行っています。職員各自の向上心を支援し、資格取得の際には報奨金を出すなど整備に努めています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女問わず年齢や経験年数、他職種の職歴など幅広く雇用しております。また、未就学の子供を育てながらも働ける環境づくりをしています。	キャリア段位制度のアセッサーを管理者が取得し、技術向上を図っている。男女で20～50歳代の職員がいるが、比較的若い職員も多く、子育てをしながらでも勤務できるよう、時間に融通をつけて勤務体制にも配慮している。休憩時間や場所も確保されており、職員同士でも協力しながら勤務している。	

H27自己・外部評価表（ユトリア博多）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修や内部伝達研修、資料の回覧などを通し人権教育や啓発を行い、偏見や差別、プライバシーの侵害がないように取り組んでいます。また、入職時には必ずコンプライアンスの研修を行っています。	人権に関する研修の案内ももらっていたが、今年度の参加はなかった。内部研修ではワークライフバランスに関して外部講師も読んで研修を実施している。新人の入職時には施設の支配人からコンプライアンス含めた指導をしており、「尊厳ある介護」を掲げて日頃からケアにも注意している。	人権関連団体などを活用した資料貸し出しや、講師派遣、また外部研修への参加がなされることにも今後は期待したい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望や能力に応じて必要な外部の研修への参加や、他施設への研修などを行っています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会・博多区グループホームネットワークへ入会しており、協議会の研修や、ブロックごとの勉強会に参加する等交流会・情報交換の場を設けています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず、入居前にはご本人様との面談を行います。必要であれば、入居前、数回にわたり自宅に職員が訪問して本人様との関係を作るなどしています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の時から、関係づくりに努め、こまめに連絡を取れる関係を作っています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で本人様とご家族様の意向を伺い、必要なサービスの見極めを行っています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様・職員が時間を共にする事の役割を持ち、人生の先輩として敬う気持ちを持ち、馴れ合いすぎない関係を務めています。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日ごろの様子を報告し、家族様の役割をケアプランに取り入れ、本人様を取り巻くチームとして関係を築いています。		

H27自己・外部評価表（ユトリア博多）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会機会も多く、知人や友人との関係を継続できるように支援しております。月に一度、週に一回など可能な限り自宅への帰宅、外出支援を行っています。	家族の面会が多い方、少ない方もいるが、事業所から連絡して知人や友人の来訪を受けることもあり、全員が何がしかの人間関係を継続している。家族支援で一時帰宅や外泊をする方もおり、結婚式に参列した方もいた。馴染みの美容室やカイロプラクティックに家族が連れて行ったり、誕生月にはそれぞれの希望を叶える個別支援も行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事・リビングなどでの席などその時々状況に応じた席などを案内し、時には職員が間に入りながら、入居者様同士が関わりあえる環境作りを目指し取り組んでいます。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は病院へ面会に行き、情報収集を行い、家族との連絡も小まめに行い、相談や支援に努めています。退去された方には施設での写真をアルバムにして、お亡くなりになった方へは、DVDIにてお渡ししています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で、ご本人様の暮らしの希望、意向の把握に努めています。また、ケアプランを作成する際は、必ずご本人様の意向を伺い、反映させております。	初回のアセスメントはケアマネージャーが担当し、センター方式の一部を、一部の方に活用し、「暮らしの情報シート」を家族に書いてもらって情報提供を受けることもある。見直しは職員に割り振り、3か月ごとに確認している。関係事業所からも情報収集し、意向の把握も難しい方には日頃の反応を見て、記録に言葉も書き止め、家族の話などからも総合的に評価している。	担当者のスキルや能力によってアセスメントにもばらつきがあるため、センター方式の取り入れや、アセスメントのスキルアップによって、より詳細な思いや意向の把握につながっていくことが今後は期待される。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に必ず面談を行い、入居されてからもセンター方式の一部を使って、生活歴・趣味などを把握するように努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援経過記録や申し送りノート、業務日誌の申し送り欄を活用し、職員間の情報の共有に努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、居室担当が中心となってご本人様の要望・家族からの意向を尊重し作成担当者や他職種からの意見も聞きながら介護計画を作成しています。毎月のミーティングで入居者様全員のカンファレンスを行うことで、事業所内のプランや情報共有にもつなげています。	担当制によって職員それぞれで受け持つ体制を構築中で、プランの素案作成やモニタリング、家族への手紙や、アルバム管理、アセスメントも計画作成担当から委譲している。日々の記録とプランを一緒にファイリングすることでプラン目標の共有と、実施チェックを紐づけており、事業所内で情報共有をしている。プラン見直しは3か月ごとに行い、看護師から意見をもらうこともある。	担当者会議の議事録に他職種からの意見を日付と共に記録していくことで、発展的なプラン作成がなされることにも期待したい。

H27自己・外部評価表(ユトリア博多)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や心身状態についても記録しております。申し送り時やミニカンファを都度行い、情報を共有して介護計画の見直しをしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が多忙や遠方で、すぐに対応できない場合など、必要に応じて職員でサポートするなど、ご本人ご家族の負担軽減に努めています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事には積極的に参加させて頂き、家族様も一緒に参加できる行事を行えるようにしています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時かかりつけ医の変更のお願いはせず、ご希望に添えるよう相談に乗っております。特に主治医がいらっしゃらない方もご相談にのり、提携病院などご紹介しています。	元々のかかりつけ医も希望があれば継続してもらい、往診の希望があれば提携医を紹介している。外部のかかりつけの場合は基本的には家族に通院支援してもらい、提携医の場合は2週に1回の往診がある。必要時には看護師が通院にも同行し、何かあった際には随時家族にも電話報告している。提携医とのやり取りは主に看護師で、日々の健康管理、情報提供もなされている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に非常勤ですが、看護師がおり、入居者様の健康管理に努めております。変化があった方は、その都度報告し、異常時には昼夜を問わず連絡できる体制を取っています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、サマリーを提出し、口頭でも本人様の日常生活を説明し、変わらぬケアの提供が出来るように配慮しています。お見舞いへも細目に伺い、退院に向けての情報収集も行っています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化及び看取りに関する指針を説明しています。初めての看取りを行い、家族様も納得する形で、御見送りすることができました。	看取りの指針が作成され、看護師も配置されており、今年度は家族からの要望もあり看取りも行った。今後も希望されれば出来る限りの支援を行う考えである。指針は入居時に説明し、重度化の際には医師立会いのもと、改めて署名ももらっている。ターミナルケアに関しての外部研修にも参加し、新しく提携された医師が24時間対応のため、必要時には紹介もしている。	

H27自己・外部評価表（ユトリア博多）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修にも参加しており、事業所内でも感染症が発生した時の対応の仕方など、抜き打ちで行ったり訓練を行っています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難総合訓練を年2回は実施しております。11月には夜間想定避難訓練を地域の方々を交え行いました。又その際、地域の方々へは当施設は備蓄を備えており、万が一の際は避難所として活用していただける旨告知し、見学して頂きました。	全館合同の2回の訓練の内1回は消防署立ち合いで、日中、夜間想定もそれぞれで行っている。以前1Fの委託厨房でボヤ騒ぎもあったが、訓練のお陰でスムーズな避難行動ができて、大きな問題にはならなかった。運営推進会議と同日開催し、地域の方に見学してもらうこともあり、地域防災にも参加している。備蓄物も確保され、鉄筋コンクリート造のため災害には強い。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新入職員への接遇研修とコンプライアンス研修は入職後すぐに行うよう努めており、職員とご利用者の関係性が築きやすい言葉かけをするようにしています。	入職時のオリエンテーションで接遇に関して指導し、内部研修にも外部講師を招いてきめ細かに行っている。常日頃から馴れ馴れしい言葉を使わず、全体で丁寧な対応に努めている。プライバシーにも配慮し、写真利用に関してはブログや広報誌など含めて詳細に書面での同意を得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いせず、あくまでもご本人様の意思を尊重するようにしています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食を11時位にトーストとコーヒーで召し上がっていた方は、その暮らしをそのままに現在も対応しております。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、本人様と相談しながらカット・パーマ・カラー等を行っている方や、馴染の美容室へ通ってらっしゃる方もいらっしゃいます。衣服も本人様に選んできていただくようにしております。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事に関しては、厨房で栄養管理されたものを手作りし提供しています。レクリエーションや誕生日会などの際はお菓子作り等を入居者様と一緒にしています。ホテルバイキングに出かけたり、個別対応で外食など行っています。	1Fの厨房を外部委託しており、栄養士管理されたメニューが毎食配食され、お茶や汁物のとりわけなどを事業所で行っている。配下膳など入居者に手伝ってもらうこともあり、ランチョンマットに陶器の器、箸置きなどで家庭的な雰囲気を作っている。毎月給食会議もあり、感想や食べたいものの要望も伝えている。	

H27自己・外部評価表(ユトリア博多)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の病状や嚥下状態に合わせ、形態・量を考えて提供しております。味付けのりなど個人の嗜好品も食事の際召し上がっていただくなど支援しております。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、お手伝いをしております。就寝前は義歯を取り外し、洗浄保管しております。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者様の尊厳を守った支援を行うようにしております。排泄チェック表・水分チェック表を活用して声掛けなどに活かしております。また、ウォシュレットも活用し、清潔を保つようにしております。	入居者ごとの介護記録の中に、水分、排泄チェックの項目があり、一体的に管理している。自立した方には過度に介助せず、後から聞き取ったり、トイレを確認したりしてチェックにつなげる。誘導によって、失敗も少なくなり、紙パンツから布とパット利用に改善したこともあった。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分摂取量を記録し相応な水分を提供し、歩行やレクリエーションなど運動も取り入れています。又、便意を感じた時にはすぐにトイレに行けるよう配慮しています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方の希望に合わせて、ほぼ毎日入浴されている方もおり、時間も夕食後に入浴の希望があれば、出来るよう支援しています。	三方向介助できる浴槽があり、広さも狭すぎずちょうどよい広さである。朝から夕食後までの対応しており、入浴剤が好きな方は各自で対応し季節の行事浴にすることもある。入浴後にボディチェック表をつかって皮膚状況の確認もしており、体調管理にも役立っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の就寝時間を尊重し、状況に応じた対応をおこなっている。空調や照明(間接照明)にも配慮しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様それぞれの病気や飲んでいる薬が分かるように、お薬手帳・薬情資料をまとめています。それに基づいて支援しており、薬の変更があった場合は、申し送り事項として、口頭と記録で行っています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の会話の中で、その方の生活歴などを伺い、裁縫が好きな方は針仕事を、絵を書くのが好きな方は塗り絵をして頂いたりして気分転換の支援をしています。		

H27自己・外部評価表（ユトリア博多）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「一日一回は外に出よう」を合言葉に、。天候の悪い時にはドライブに行ったり、お天気の良い日は、近隣の公園へ散歩へ行ったりとほぼ毎日外出しております。ヤフオクドームへ野球観戦、福岡タワーや植物園、家族様も交えて、外泊支援も行いました。	元気な方も多く、随時の外出もしており、最近ではドライブによるイルミネーションツアーとして夜の外出も企画している。調査時も、空港までのドライブを計画外で楽しんでいた。日常的には近隣の公園や図書館に行ったり、散歩もしており、個別プランによる対応もしている。全体外出レクも2ヶ月に1回程度企画され、全体の外出機会が多い。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を本人様がしている方はいらっしゃいませんが、職員と外に買い物に行くような時は、入居者様にレジでのやり取りをして頂いています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご本人様宛に来たお手紙の返事を書くなど支援しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用リビングには、入居者様達で作られた、カレンダーを貼り、毎週生花を花屋から配達してもらいフロアにも生の花が常時あるように心掛けています。	ユニットはEVホールを挟んで左右対称の造りで、入り口は職員管理で電子施錠されている。ライトブラウンの木目調の床張りで、間接照明などで使われ温かみがありながらも高級感が感じられる。トイレは3か所あり、居室から近いところを利用し、リビングの各所に置かれたテーブルやソファで好きな者同士で過ごしたり、一人で過ごしたりと自由な時間を共有している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他入居者様の居室に遊びに行ったり、リビングのソファも自由に、思い思いに過ごされるよう配慮しています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人様・ご家族と相談し、使い慣れた家具等持ち込んで頂いたりしています。入居前にいた生活空間となるべく近い状態にしています。	介護ベッドとリバーシブルのマットレスが備え付きで、好きな硬さを選ぶことも出来る。持ち込みは少ないが、昔使っていたミシンや電子ピアノなどを持ってきてくれる方もいる。必要な方には木目調のポータブルトイレや歩行器などの貸し出しもあり、季節ものの入れ替えも家族にお願いしてシンプルな部屋作りがされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はすべてバリアフリーとなっており、居室内も生活動線に合わせて家具の配置など考慮しています。		